

水痘予防接種の説明書

<p>水痘とは</p>	<p>水痘帯状疱疹ウイルスの空気感染（ウイルスが空気中に飛びだし、人に感染すること）、飛沫感染（咳やくしゃみ等により感染すること）、接触感染（皮膚や粘膜の直接的な接触、または病原体の付着したタオルや容器などに触れることにより感染すること）によっておこる病気です。感染力が強く9歳以下での発症が90%以上を占めるといわれています。潜伏期間は2週間程度で、発疹、発熱が主な症状です。発疹は最も特徴的で、顔面、胸腹部、頭部に次々に点々とあるいは集中的に現れ、発疹は紅斑（皮膚の表面が赤くなること）から始まり、水疱、膿疱（粘度のある液体が含まれる水疱）を経て痂皮化（かさぶたになること）して治癒するといわれています。一般に水疱の数は症状が出てから数日以内に250～500個以上に達します。発熱は通常38℃前後で2～3日続きますが、40℃を超えることもあり、その際に熱性けいれん（ひきつけ）を合併することがあります。我が国では年間100万人程度が発症し、4,000人程度が入院、20人程度が死亡していると推定されています。成人での水痘も稀に見られますが、成人に水痘が発症した場合、重症化するリスクが高いといわれています。</p>
<p>接種対象年齢 接種回数・間隔</p>	<p>生後12か月から36か月に至るまでに2回 （標準的な接種期間） 【1回目】生後12か月から生後15か月に達するまでの間に1回 【2回目】1回目から3か月以上（標準的には6か月から12か月まで）の間隔をおいて1回。</p>
<p>ワクチンの副反応</p>	<p>○注射部位の症状（赤み、硬結、腫れなど）、発熱（37.5℃以上）、発疹などがみられます。 ○極めてまれに、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病等が報告されています。 ----- 予防接種を受けたあと、副反応が起こった場合は医師の診察・治療を必ず受けてください。</p>
<p>受けることができない人</p>	<p>○明らかに発熱のある人（37.5℃以上の場合） ○重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人 ○その日受ける予防接種に含まれる成分でアナフィラキシーを起こしたことがある人 ○医師が不相当と判断した人</p>
<p>予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない人</p>	<p>○心臓病、肝臓病、腎臓病、血液の病気などの治療を受けている人 ○以前に予防接種を受けたとき、2日以内に発熱、発しん、じんましんなどアレルギーを思わす異常がみられた人 ○今までにけいれんを起こしたことがある人 ○過去に免疫不全の診断がなされた人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人 ○予防接種に含まれる成分にアレルギーがある人 ○発育で経過観察といわれている人</p>
<p>ワクチン接種後の注意</p>	<p>○接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーがおこる可能性がありますので、医師とすぐ連絡がとれるようにしておきましょう。 ○接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。 ○接種後当日は過度な運動を控え、1週間は体調の変化に注意しましょう。 ○接種部位は清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は問題ありませんが、接種部位を強くこすることはやめましょう。 ○接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。 ○このワクチンとほかのワクチンの同時接種を希望する場合は、医師にご相談ください。 ○このワクチン接種後、ほかの生ワクチンの予防接種をする場合は、中27日間の間隔をあげてください。</p>